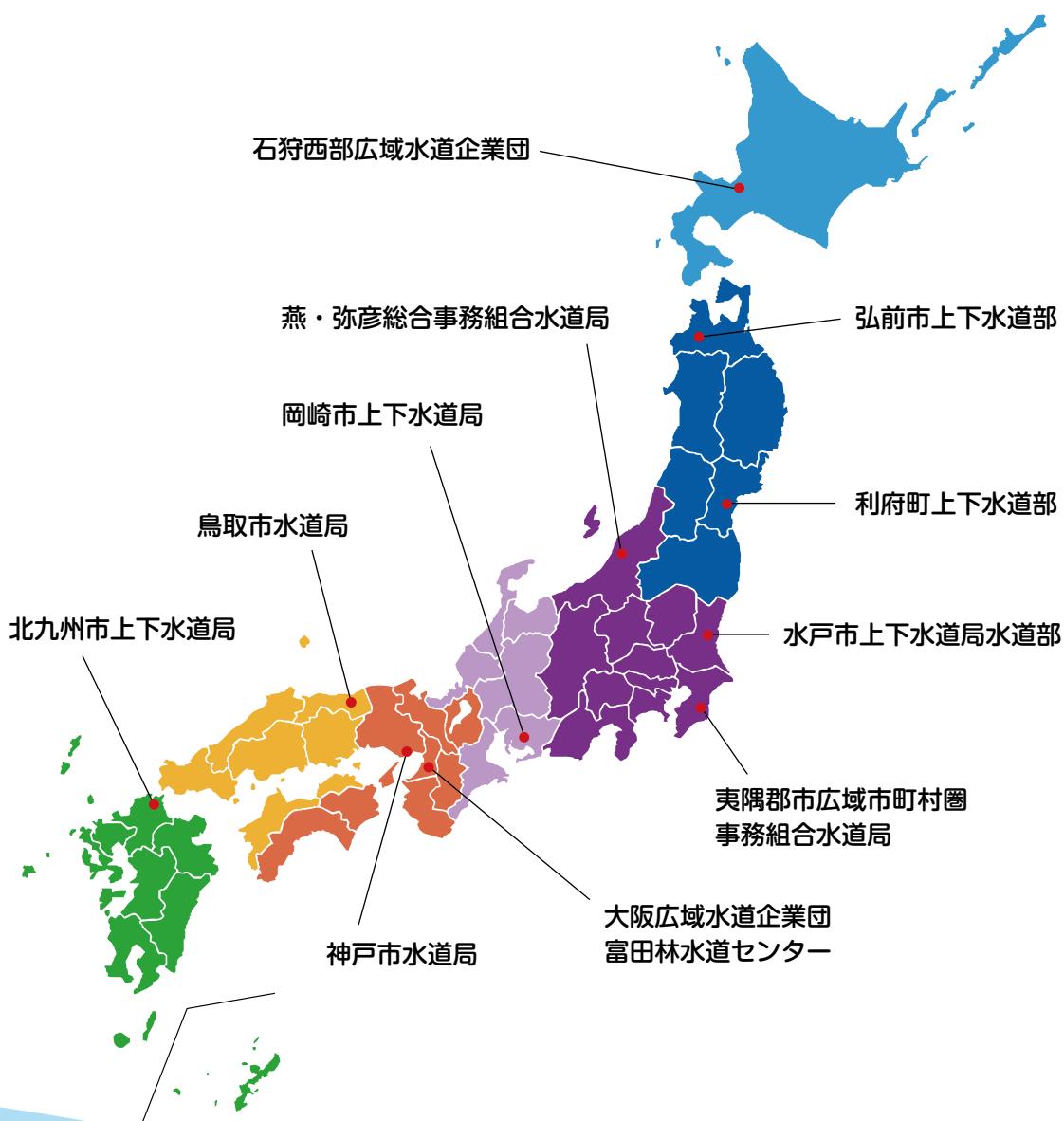


117号でご協力いただいた事業体





石狩西部広域水道企業団



送水管布設(NS形Φ700)



当別浄水場



石狩西部広域水道企業団 施設位置図

札幌市への用水供給開始

石狩西部広域水道企業団は、札幌市、小樽市(石狩湾新港地域)、石狩市、当別町に水道用水を供給するため、3市1町に北海道を加えた5団体を構成団体として平成4年に設立されました。

用水供給開始に向けた施設整備は、平成4年度から平成24年度までの第1期創設事業と、令和2年度から令和6年度までの第2期創設事業に分けて実施しております。

第1期創設事業では、「粒状活性炭+急速ろ過方式」の高度浄水処理方式を採用した当別浄水場や約43kmの送水管等を整備し、平成25年度より札幌市を除く2市1町への供給を開始しました。

第2期創設事業では、札幌市へ供給するため、第1期と同様の処理方式による浄水場を増設し、合計日最大69,000m³の供給体制を整えました。

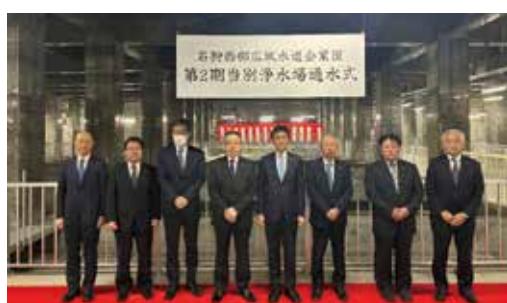
札幌市まで延伸した約10kmの送水管の布設では、全区間で耐震継手を有するダクタイル鉄管(口径700mm)を採用し、管路の耐震化を高めるとともに、管の内面はエポキシ樹脂粉体塗装することで水質の安定化を図りました。JR軌道の横断が必要な箇所において

では、廃止予定だった札幌市の既設水道管を外装管として利用したパイプインパイプ工法を採用するなど、事業費の縮減を図りました。

また、札幌市の受水地点は浄水場より高い位置にあることから、時間あたり500m³送水可能なポンプ設備5台を有する札幌ポンプ場・分水施設を新設しました。

令和7年3月29日には「第2期当別浄水場通水式」を開催し、4月1日より札幌市への供給を開始しました。

石狩西部広域水道企業団としては、「地域の皆様に安全でおいしい水を安定的に供給する」という水道用水供給事業者の責務を果たすべく、今後も職員一同全力で安心安全な用水供給と健全な経営に取り組んでまいります。



通水式 来賓者記念撮影



弘前市上下水道部

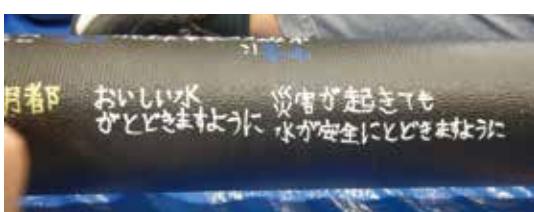
老朽管の更新工事見学 未来の水道へ「水道管へのメッセージ書き込み体験」



工事見学



書き込み体験



書き込み状況

全国的に水道施設の老朽化が進む中で、近年頻発する地震等の災害に対応するため、水道管の更新及び耐震化は急務であり、平時、災害時問わず、いかなる状況下においても安全・安心な水道水を供給することは、水道事業者の責務であります。

しかしながら、人口減少により料金収入は減少する一方で、更新が必要な施設の増加や物価高騰などにより、現行の水道料金では運営が大変厳しいものであり、料金を値上げしなければ、水道事業の継続が困難な状況となっております。

これらに対し、水道利用者に水道事業を分かりやすくPRするとともに、工事や料金値上げなどへの理解を深めていただくために良い方法がないか模索しているところでありました。

そのような中で、小学校前の市道において水道管を更新する機会があり、受注者の提案と協力に加えて、小学校からの大きな理解が得られたことから、水道工事見学会を実施する運びとなったものです。

児童には、実際に使用する水道管へメッセージを書き込んでもらい、その水道管を布設する工事を見学する体験を通して、安全に飲むことができる水の大切さと、水道事業への理解を深めていただいたと同時に、水道事業者として建設工事の魅力とやりがいを伝える良い機会になったと実感しております。

また、地元マスコミのニュースや新聞にも取り上げていただいたことから、市民へのPRにも寄与したものと思っております。

引き続き、水道は、市民生活を支える重要なライフラインであることにご理解をいただきながら、水道事業者としての責務を果たして参ります。





利府町上下水道部

上下水道事業包括的民間委託の導入について



SPC との打合せ

利府町上下水道課では、令和7年4月1日から「管理・更新一体マネジメント方式」(レベル3.5)更新支援型によるウォーターPPP事業を開始しました。SPC「株式会社Rifレックス」と基本契約を締結し、上下水道事業の包括的民間委託を実施しています。

ウォーター PPP 事業に取り組んだ経緯としては、従来は職員が大部分の業務を担当していましたが、将来的な職員数減少による人



利府町位置図

包括的民間委託導入による業務の移行イメージ

- 業務の特徴
本町の上下水道事業を包括的民間委託(W-PPPレベル3.5)は、水道事業、下水道事業の2事業が対象で、土木、建築、機械、電気、管路などの施設を網羅。
 - 管理・更新一休マネジメント方式であり、維持管理全般(運転監視、保全など)の日常業務から、蓄積した維持管理データを基に、更新・維持管理の計画、設計までをワンストップで行う。
 - 町が発注する工事の施工監理までを受託者が担う。
 - 検針、料金窓口業務や、給水設備、排水設備の審査、検査業務など、直接、住民や地元企業と関わるサービス業務を行う。
 - 自然災害等の緊急事態が発生した場合は、受託者が初期対応を行うとともに、町と連携し必要な措置を実施できるよう体制を確立しておく。



包括的民間委託導入後の運営について

事業化の実現に向けて最も苦慮した課題は、地下埋設管路施設の現状把握でした。この課題に対し、10年の基本契約と事業年度ごとの実施契約を組み合わせる方式を採用しました。SPCが収集する維持管理情報をもとに最適な維持管理計画と更新計画を立案し、町の承認を経て実施契約に反映させることで、官民双方のリスク分担を最適化しました。

10年間の事業期間中は、定期的なモニタリングを実施し、本業務の継続的な管理・評価を行ってまいります。本事業を通して、本町と同様の課題を抱える全国の事業体の参考となるモデル事業になるよう、今後も取り組んでまいります。



関東支部

燕・弥彦総合事務組合水道局

新しい浄水場の見学会で、
ダクタイル鉄管の接続体験を実施！



耐震管接続体験



施設見学ツアーの様子



燕市・弥彦村統合浄水場

令和7年6月8日(日)、3月に竣工した「燕市・弥彦村統合浄水場」の見学会を初開催しました。災害に「つよい」、環境に「やさしい」、今と未来を「つなぐ」新しい浄水場の姿を施設見学ツアーや水道について楽しく学べる体験型のブースを通じて、市民の皆様にご紹介しました。

県内最大規模の膜ろ過装置を見学できる「施設見学ツアー」、水道水の塩素を測定する「塩素測定実験」、水道管でつくる「水鉄砲づくり」などのほか、昨今、水道管の老朽化問題に関心が高まっていることを受けて「ダクタイル鉄管のブース」を用意しました。φ 250 及びφ 700 ダクタイル鉄管とパネル展示に加えて、φ 50 ダクタイル鉄管の接続体験を通じて耐震管の仕組みを分かりやすく伝えることができました。来場者からは、「耐震管を初めて見た」「地震に強い水道管で安心した」などの嬉しいお声をいただきました。

見学会を開催できたことで、地域の皆様へ安全・安心な水道水をPRできたと感じています。浄水場の完成をゴールとすることなく、さらなる水道事業の強化と持続的な水道事業経営を目指していきます。



開催案内



関東支部

水戸市上下水道局水道部

「令和7年度 水戸市 水道週間」



ろ過装置の作成



応急給水器具の組立て



飲料水の容器別持ち比べ体験



体験教室の様子

水戸市上下水道局水道部では、6月1日(日)から7日(土)の水道週間にあわせて、水戸市役所1階にてイベントを実施しました。このイベントは、市民の皆さんに水道事業に対する一層の理解と关心を深めていただくことを目的として毎年開催しており、今年度は水戸市が作成した動画「水道水のできるまで」の公開のほか、災害対策をテーマに、パネルや耐震管の模型の展示を行いました。

また、1日と7日には、小学生と保護者を対象にペットボトルを使用したろ過装置の作成、応急給水器具の組立てや飲料水の容器別持ち比べ体験など、「水道に関する体験教室」を開催しました。参加者からは、「地域住民の一人として防災意識が高まった。」「応急給水器具の組立て方がわかったので、災害時は進んで協力したい。」などの頼もしい言葉をいただけました。

今回の水道週間では、一般社団法人日本ダクタイル鉄管協会をはじめ、水戸市管工事業協同組合にもご協力いただき、災害対策について子供から大人まで楽しみながら学んで体験していただけるイベントとなりました。

今後も安全・安心な水道水の安定供給を第一の責務として事業を推進するとともに、市民の皆さんから信頼の得られる健全な事業経営に努めてまいります。



夷隅郡市広域市町村圏事務組合水道局

2市2町の水道事業を統合 ～スケールメリットを生かし水道の安定供給～



2市2町による「夷隅地域水道事業の統合広域化に関する基本協定」締結式（令和6年7月）



夷隅郡市広域市町村圏事務組合庁舎

勝浦市、いすみ市、大多喜町及び御宿町で構成される夷隅地域は、千葉県南東部に位置し、大部分が人口密度の低い中山間地域です。このため、他の事業体に比べて給水コストが高くなっています。また、人口が年々減少していることから今後も減少が予想され、これに伴い水需要が減少し、水道料金収入も減少することが想定されます。

一方で、施設や管路の老朽化が進行しているため、順次更新しなければならず、多額の費用が必要となります。また、収入の減少に対応するため各市町では、経費削減の取り組みの一環として人員削減を行ってきましたが、緊急時の体制や技術の継承等に課題があります。

これらの諸問題を解決するためには、水道事業の経営基盤及び技術基盤を強化し、安定した経営体制を構築する必要があります。これは単独の市または町では困難であるため、地域的に結びつきの深い2市2町で水道事業の統合を推進することとし、令和6年7月に「夷隅地域水道事業の統合広域化に関する基本協定」を締結しました。その後協議を重ね、合意に至ったことから、令和7年4月に夷隅郡市広域市町村圏事務組合に水道局を設置し、夷隅地域全域の水道事業を開始しました。

水道事業の統合により、「人材」「施設・設備」「資金」を一つにし、スケールメリットを生かした諸費用の削減や、国の交付金等を活用した施設の統廃合、ダウンサイ징を行います。老朽管については、強度や耐久性が高いダクタイル鉄管等へ更新することにより漏水リスク等の解消及び耐震化を推進します。

これにより経営の効率化を図り、将来にわたって安心で安全な水道水の持続的かつ安定的な供給に努めます。



凡例	
<施設>	
■	浄水場
■	配水場、配水池
—	配水管
—	南水送水管
※	南水：南房総広域水道事業団
<水系>	
■	自己水
■	ブレンド
■	南水受水



岡崎市上下水道局

令和7年度水道週間イベントにおける取組

令和元年の水道法改正で「水道の基盤強化」が明記され、全国的に料金改定の議論が進む中、上下水道事業の課題を市民の皆様と共に有し、事業への理解と関心を深めていただく重要性がますます高まっています。

当局では、2年前に下水道事業100周年記念事業として実施したイベントで培ったノウハウを継承し、職員の能力向上も図るため、令和7年度の水道週間イベントを新たに企画しました。今回のテーマは「費用を抑え、職員の手作りで、より多くの方に水道事業を身近に感じていただくこと」です。

特に好評だったのは、水道管の廃材を活用した水鉄砲作りです。参加者は、ものづくりの楽しさを味わいながら実際の水道インフラ資材に触ることができました。また、スチレンボードで作ったデザインマンホール蓋パズルは幅広い年代に親しまれ、消火栓を使った噴水ショーでは勢いよく吹き上がる水に子どもたちが全身ずぶ濡れになって大はしゃぎ。水道の力強さを体感できる貴重な機会となりました。

このほか、上下水道事業を紹介するパネルをはじめ、水道管の耐震化手構造が分かるパネルや模型の展示により、水道事業における重点施策の取組について理解を深めていただきました。

参加者アンケートでは「初めて知ることばかりで楽しかった」「また全部やりたい」といった声が多数寄せられ、水道事業をより身近に感じていただく良い機会となりました。今後も市民の皆様と共に、安全・安心な水道の未来を築いてまいります。



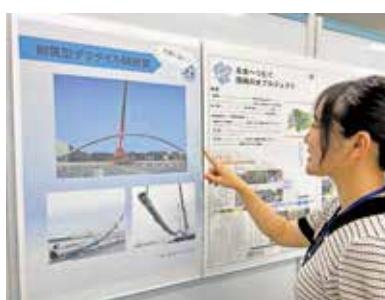
水鉄砲



マンホール蓋パズル



浄水場内消火栓を使用した噴水



耐震化事業啓発



水道事業概要説明状況



関西支部

大阪広域水道企業団 富田林水道センター

水道週間における広報活動について

大阪府では、府域一水道の実現に向けて、大阪広域水道企業団を核とした水道事業の統合をすすめており、これまでに19団体が企業団と統合しています。

富田林水道事業においても、令和7年4月1日から、大阪広域水道企業団の一員（富田林水道センター）として、事業運営をスタートしました。

これまででも本水道事業では、利用者の皆さんに安全で安心な水道水をお届けし続けるため、計画的に水道施設の老朽化及び耐震化対策に取り組んでいますが、災害等、不測の事態に備え、飲料水の備蓄に関する広報活動も「水道週間」に合わせ行っています。

特に近年では、昨年の能登半島地震における長期間となる断水、老朽化した水道管が原因となる漏水事故の多発など、水の重要性がクローズアップされています。

このような社会情勢を受け、今年度は、「水の備蓄の大切さ」と銘打ち、6月5・6日の2日間にわたり、富田林市の代表的な商業施設において、備蓄に関する啓発及び災害用備蓄水の配布を行い、約800人の方々に来場していただきました。

また、本水道事業の現状と課題、そしてDX技術を活用した新たな取り組み（情報発信・漏水調査）など、より水道に興味を持つていただけるようパネル展示も実施し、盛況のうちに終えることができました。

今後も、大阪広域水道企業団の一員として安全な水道水の供給を維持するとともに、利用者の皆さんに安心して水を使用できるよう、健全な事業運営に努めてまいります。



災害用備蓄水の配布の様子



パネル展示



市民に説明



神戸市水道局

震災 30 年を未来につなぐ



「阪神・淡路大震災」から 30 年の節目を迎え、震災の記憶や教訓を未来へ継承し、世代を超えて防災・減災の重要性を共有するため、市民向け防災イベント「レジリエンスセッション 震災と未来のこうべ博」が、4月26日、27日に「デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)」、「みなとのもり公園 (神戸震災復興記念公園)」など4つの会場で、開催されました。

イベントでは産学官が連携して、ヒューマノイドレスキューロボットの操作体験、VR 災害体験、防災ヘリの搭乗体験、特殊車両の展示、スタンプラリーなど、子どもから大人まで楽しみながら学べる多彩なプログラムが展開されました。

神戸市水道局もブースを出し、「耐震化の取組紹介」や「応急給水体験」、「市内に整備した応急給水拠点の案内」など、水道インフラの強靭化に向けた取組を広く紹介しました。特に応急給水体験では

は、実際の給水袋を用いた体験を通じて、災害時の備えの大切さを市民の皆様に学んでいただきました。

今後も震災を教訓に、地震など近年多発する様々な自然災害に備えるため、老朽化した水道施設の更新・耐震化やバックアップ機能の強化など「蛇口からいつでも水が飲める強靭な水道の構築」を推進するとともに、水道事業や水道水の安全性、災害対策等を多様な広報媒体により分かりやすく情報発信するなど「広報とコミュニケーションの充実・強化」に取り組んでまいります。



水道局の取り組みについて説明



応急給水体験の様子



給水車とパネルの展示



鳥取市水道局



膜ろ過ユニット
(基幹浄水場：浄水処理能力 80,000m³ / 日)



配水池 (有効容量 4,000m³)



前処理施設と緩速ろ過池建屋 (緩速ろ過浄水場：浄水処理能力 286m³ / 日)

「水道施設見学バスツアー」の開催

鳥取市水道局では、水道週間中の新たなイベントとして「水道施設見学バスツアー」を企画しました。浄水場や配水池を経て水道水が家庭に届くまでのしくみをツアー形式でたどり、施設の役割や維持管理の大切さを理解してもらうことを目的として開催しましたのでご紹介します。

ツアーコースは、時間や安全面を考慮して3カ所に絞り、当市の基幹浄水場、市街地に給水する配水池、そして、簡易水道を上水道に統合したことでの施設を抱えることとなった現状を紹介するため、旧簡易水道施設の中から緩速ろ過方式の浄水場を選定しました。企画当初は大型バスの利用を考えていましたが、施設への乗り入れを考慮して、小回りが利く20人乗りバス2台で開催しました。

基幹浄水場では、膜ろ過ユニットや自家発電設備を見学したのち、当浄水場で処理した水道水とミネラルウォーターを飲み比べる利き水を行いました。配水池では、実際に屋上へ昇って施設の規模を体感してもらったほか、緊急遮断弁の役割や災害に備えた取り組みを説明しました。市の中心部から20km以上離れた緩速ろ過浄水場では、ろ過のしくみを説明するとともに、積雪時の点検や停電時の対応など、厳しい環境下での維持管理の苦労について紹介しました。各見学地で水道施設を間近に見た参加者からは、職員でも気付きにくい素朴な疑問や質問など多く受けました。

また、移動中の車内で水道に関するクイズを出題するなど、参加者に楽しんでもらえるよう工夫しました。

終始和やかな雰囲気の中で開催することができ、車中の会話や事後のアンケートにおいて「山あいの小さな施設の管理は大変」「おいしい水道水のしくみが分かり勉強になった」といった感想が寄せられ、維持管理に関する理解が図られました。

今後も、ツアー参加者から寄せられる使用者目線にとどまらない質問・疑問の中から広報のヒントが得られる貴重な機会として、改善を重ねながら開催をしていきます。



北九州市上下水道局

【世界で信頼される上下水道（北九州市）】



水と触れ合う子どもたち（カンボジア）
左：北九州市職員



浸水対応訓練（ベトナム）
前方：北九州市職員



技術協力協定文書交換式（ベトナム）

北九州市上下水道局は、令和6年10月にカンボジアの「プノンペンの奇跡」*がNHK「新プロジェクトX」で全国放送され、令和7年4月には日本・ベトナム両国首脳の立会いのもと新たな技術協力協定の文書交換式が執り行われるなど、長年にわたる国際技術協力が改めて注目を集めています。

北九州市は、平成26年にベトナム・ハイフォン市と姉妹都市協定を締結し、水道分野では北九州市独自の高度浄水技術「U-BCF」を展開し、同市の水質改善を支援しています。下水道分野においても、施設の維持管理や浸水対策に向けた人材育成、市民啓発に注力し、共同訓練の様子がベトナム国内で放映されるなど、大きな反響を呼びました。

こうした取組が評価され、北九州市は第19回自治体国際交流表彰（総務大臣賞2025）を受賞しました。

さらに、海外事業に携わる職員の密着動画の制作やSNSを活用した広報活動も、日本の水道事業関係者に好事例として共有されています。

今後も国や関係機関と連携しながら、国際協力への理解促進と地域社会への貢献に努めてまいります。

*「プノンペンの奇跡」

1990年代より2000年代初頭にかけて行われたカンボジアの首都プノンペン都での水道行政改革。北九州市も技術協力を実現し、アジアで数少ない「飲める水道水」の実現を支援した。



海外に行くっしゃ！北九州市職員の挑戦



動画視聴用 QR コード



私の好きな

時間



猫

九十九里地域水道企業団
工務課 主幹
川島 裕之



1. はじめに

新型コロナウィルス感染症の感染拡大が騒がれていたころ、『行動制限等により自宅で過ごす時間が増える中、癒しを求めてペットを飼う人が増加した』というニュースを聞いたことがある方も多いいらっしゃるのではないでしょうか。実際、一般社団法人ペットフード協会の調査によると、新規飼育頭数は、犬については2019年の35万頭から2022年は43万頭、猫についても2019年の39万頭から2022年は43万頭と、新たに飼い始めた人が増加している様子が伺えます。

我が家では、そんなコロナ禍のペットブームが始まる10年ほど前から、2匹の猫と一緒に生活しております。

今回は、私が猫と暮らすことになったきっかけや実際に猫との生活で感じたことについて書かせていただきたいと思います。

2. 猫を飼い始めたきっかけ

私は、幼少期から結婚するまでの間、長らくペットとは無縁の生活を送ってきました。そのため、子供のころから漠然と『所帯を持ったらペットを飼って

みたい』という願望はありました。飼いたかったのは猫ではなく犬でした。理由は、犬はしつけがしやすく飼い主に従順で、猫は人には懐かずしつけもできないと思っていたからです。

一方、妻は幼少期からずっと猫を飼い続けており、実家はご飯の時間になると飼い猫だけでなく地域猫も集まくるような、いわゆる猫屋敷でした。

結婚して家を購入してから一年ほど経ったある日、実家から戻ってきた妻がおもむろにカバンから子猫（茶トラの雄）を取り出しました。聞けば実家の飼い猫が生んだ子猫を連れて帰ってきたとのこと。そしてさらに一年後、またしても妻のカバンから子猫（三毛猫の雌）が出てきました。

いずれも事後報告だったため反論することもできず、こうして私はある日突然、猫の飼い主になったわけです。

3. 猫を飼い始めて気付いたこと

当初は、爪とぎやマーキングによる家具への被害、食料の盗み食いなど、様々な不安がありましたが、幸いなことに我が家の猫はとても物分かりがよく（？）、現在まで家財に大きな損害を被ることなく生活

でできております。またいざ飼ってみると、自分が思い描いていた猫と実際には違う点が多くありました。

① 嗅覚、聴覚>視覚、記憶力

飼い始めるまでは『犬は嗅覚が優れており、猫は視覚が優れている』と勝手に思い込んでいましたが、実は目はあまり良くはないようで、飼い主から食べ物にいたるまで、まずは匂いを確認します。家にきたばかりのころは2頭とも、家の匂いを嗅ぎまわっており、犬じゃないのに何でそんなに匂いを嗅ぐのかと驚いたのを覚えています。

また、音に対しても敏感で、飼い主と他人の足音を聞き分けることができるようで、帰宅すると必ず玄関で出迎えてくれますが、宅配の方などが来たときは、いつの間にかどこかに姿を隠してしまいます。

逆に視覚や記憶力はあまり良くないようで、出張などで2,3日でも家を空けると毛を逆立てて威嚇



自宅のソファでくつろぐ猫

されてしまいます。彼らはとても縄張り意識が強く、自分の縄張りに入ってくる者を、匂いと音で仲間かどうか判断しているようです。従って、よその家の猫や猫カフェで猫に触れるは当然NG。そもそも私はよその猫が怖くて触れないのですが、直接触っていなくても服やカバンについた匂いにも反応し、敵とみなされてしまいます。

ちなみに、猫の世界に血縁という概念は存在しないようで、一緒に暮らしていないと親兄弟のことも忘れてしまうようです。ちょっと悲しいですね。

② 毛柄によって性格が違う

現在、人間が飼っているイエネコの祖先は約13万年前に中東の砂漠などに生息していたリビアヤマ

ネコであると言われており、毛色は茶色ベースに黒い縞模様の入ったキジトラ柄しかなかったものから、ペットとして飼われるうちに様々な毛色、柄に枝分かれしていったと考えられています。

興味深いのは、この毛柄によって猫の性格の傾向があるそうで、我が家の猫にも概ね当てはまっています。



猫用おもちゃで遊ぶ様子

茶トラは人当たりがよく穏やかでとても友好的なのに対し、三毛猫は人の好き嫌いがはっきりしており、とても気分屋である意味猫らしい性格です。

私が帰宅した時に出迎えてくれるのは茶トラで、三毛猫は遠くから様子

を伺い、すぐに物陰に隠れてしまいます。在宅中も近くに寄って来て構ってくれとアピールするのは茶トラで、三毛猫は妻の膝の上に陣取っており、私にはエサを貰う時以外は近づいてきません。

もしも今、猫を飼おうか迷っている方がいるのであれば、私は迷わず茶トラをお勧めします。もちろん個体差はあると思いますが、お腹や尻尾を触っても怒らず甘えてくれるかわいらしい性格が最大の魅力で、初心者にも飼いやすいと思うからです。

4. 最後に

ペットフードや関連グッズの販売、猫カフェや猫をテーマにした旅行などの猫の経済効果は2025年に約2兆円を超えると試算されているそうです。少し前の2007年にも、和歌山電鐵に初めて『ねこの駅長』が就任し、国内に留まらず海外でも大きな話題となり、大きな経済効果をもたらしたことが話題になりました。

もしかすると水道事業体においても『ねこの局長』が就任し、財政難に苦しむ水道事業の運営に一役買ってくれるような、そんな時代がくるかもしれませんね。

私の好きな
時 間

ENJOY AND EXPERIENCE THE MUSEUM

東大阪市
上下水道事業管理者
江原 龍二



筆者近影

【起】今年の大坂における充実した特別展

私の至極のひとときは、美術館や博物館で展示されている至宝に囲まれているときです。特に造詣が深いわけではなく、その空間に居合わせることに無上の幸せを感じています。今年は大阪・関西万博の開催に合わせ、私の勤務する東大阪市のとなり大阪市では、主だった美術館や博物館でこれまでにない特別展が開催されています。例を挙げると、「日本国宝展（大阪市立美術館、4/26～6/15）」、「日本美術の鉱脈展 未来の国宝を探せ！」（大阪中之島美術館、6/21～8/31）等々、それぞれの学芸員達が競い合うように企画を練ったあとが感じられます。特に前者は、展示だけでなく、今年に間に合うように数年前から大規模改修が施されており、学芸員達だけではなく、政令市である大阪市の総力を挙げて今年に合わせて準備してきたことを伺わせるものでした。



写真1 大阪市立東洋陶磁美術館の外観

【承】大阪中之島・東洋陶磁美術館

大阪中之島にある「大阪市立東洋陶磁美術館」（写真1）は、数あるミュージアムの中のお気に入りの一つです。1982年（昭和57年）に開館、昨年4月にリニューアルされました。中国や韓国朝鮮の陶磁では世界的に有名な「安宅コレクション」（後漢から明代にかけての中国陶磁144点、高麗・朝鮮陶磁793点）を中心に約5,800点を収蔵し、常時約400点を展示しています。

コレクションの一部を紹介します。写真2は南宋・龍泉窯（浙江省）の「青磁鳳凰耳花生」です。青磁は2世紀の中国で誕生し、鎌倉室町以降に日本に盛んにもたらされ、伝世している例も多くあります。もう一つ、写真3は高麗青磁の「青磁陽刻菊花紋碗」です。高麗青磁は翡翠の煌めきと称され、宋代の文人は高麗翡翠色を天下第一と讃えたと言われています。



写真2 青磁鳳凰耳花生
(南宋・13世紀、高さ28.8cm、幅・奥行12.8cm、重要文化財)



写真3 青磁陽刻菊花紋碗
(高麗・12世紀、高さ4.9cm、幅11.7cm)

【転】京都鹿ヶ谷・泉屋博古館

私は京都市在住で、毎日大阪市内を経由して京都市と東大阪市の間を往来しています。言うまでもなく京都市には大小数多くのミュージアムがあり、今年は京都市でも特別展の目白押します。

写真4は、私のいちばんのお気に入りである、京都東山の麓・鹿ヶ谷にある「泉屋博古館」です。本館は昭和45年(1970年)に開館、今年4月にリニューアルされました。「住友コレクション」と称される、



写真4 泉屋博古館の外観

住友家が収集した美術品、工芸品を収蔵展示しています。収蔵する作品の多くは、明治・大正を生きた住友15代当主住友友純(春翠)によって収集されたものです。古代中国の青銅器約600点をはじめ、中国・日本の書画約650点、茶道具約800点、能装束・能面が約250点、洋画約150点が、京都鹿ヶ谷の本館の他、平成14年(2002年)に分館として開館した東京六本木の東京館に収蔵展示されています。

本館は庭園も美しく、中庭は東山や大文字を借景とした景観を、初夏の新緑(写真5)や錦秋の紅葉(写真6)を含め、四季を問わず楽しめます。コレク



写真5 泉屋博古館の中庭(初夏)

写真6 泉屋博古館の中庭(錦秋)

ションの中心となる中国青銅器は、本館の中にある「青銅器館」という専用展示室に常設展示されています。私のお気に入りは、「饕餮文」と称される、殷代から周代にかけて用いられた文様が施された

青銅器です。写真7がこの文様があしらわれた青銅器の一つ「饕餮文方罍」です。饕餮とは、本来は中国の大食らいの悪鬼を指す言葉ですが、宋代の学者が、逆に邪気を食らいつくす縁起の良い怪獣として、この文様の名称としたものです(写真8が写真7中央付近の饕餮文)。罍とは古代中国の大型の器の種類の一つで、方罍とは方形の罍という意味です。

青銅器館はうす暗い展示室内で展示物に照明を当て、4つの展示室を順に鑑賞してまた元に戻るシンプルな物ですが、古代中国の歴史の中にタイムスリップした錯覚を漂わせる雰囲気です。ここで一夜を過ごし、展示されている青銅器に縁のある古代人が夢に現れるのを待ちたい気持ちです。

【結】文化と技術を次へつなぐこと

文化財とは人や社会がつくりだす究極の「こだわり」と「ゆとり」の成果であり、その価値を共有し続ける「人」、「社会」そして「制度」によって育まれる「文化」を意識しなければ、その存在は成り立たないものであると、前述の2つのミュージアムから感じています。その少しでも意識して、我が国の社会資本を支える技術や法制度を次へつないでいきたいと思います。

東洋陶磁美術館、泉屋博古館の設立の経緯や詳細、収蔵品の謂われは大変興味深いのですが、紙面の都合上、それぞれのホームページ、そして住友グループ広報委員会のホームページ等を参照してください。機会をつくって足を運んでいただき、筆者の感性をほんの少し感じていただければ幸いです。

引用情報

- ・大阪市立東洋陶磁美術館：<https://www.moco.or.jp/>
- ・泉屋博古館—京都一：<https://sen-oku.or.jp/kyoto/>
- ・住友グループ広報委員会—関連施設一：<https://www.sumitomo.gr.jp/history/related/>



写真7 饕餮文方罍
(殷後期・紀元前12~11世紀、高さ62.5cm、重量19.0kg)



写真8 饕餮文
(写真7中央部の拡大)

特別インタビュー

日本ダクタイル鉄管協会の環境への取り組み

東京都市大学名誉教授 長岡 裕 氏



当協会の環境への取り組みについて、ホームページの掲載内容をもとに長岡教授に説明を行い、ご意見をうかがいました。

【当協会の環境への取り組みの考え方】

- ①環境省が提示するサプライチェーン排出量の削減に寄与する活動を進め、CO₂排出量の削減を図ります。
- ②貴重な水資源の保全を図ります。
- ③資源のリサイクルに取り組み、廃棄物の発生を抑制します。

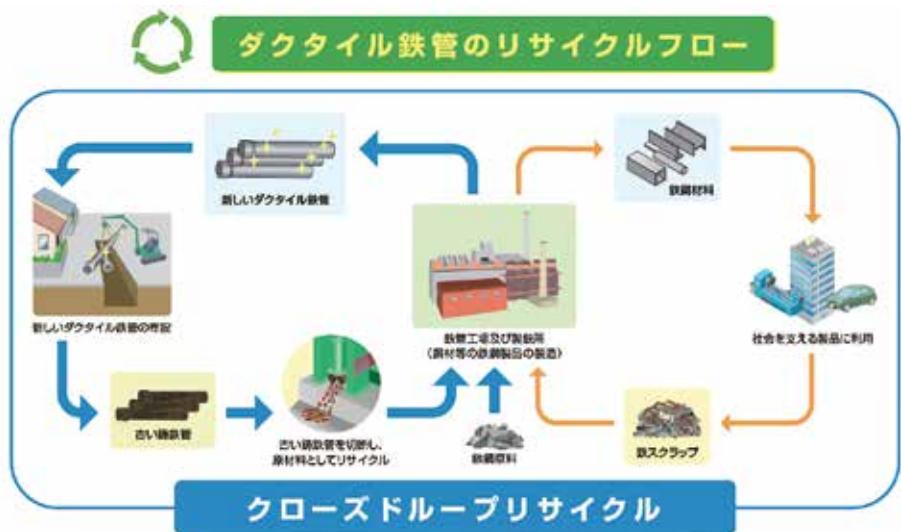
長岡教授：まず、大前提として水道システムが成立する上でダクタイル鉄管は欠かすことができません。鉄はインフラの中ではクラシカルな素材です。最も大きなメリットは、他の材質と

異なり、鉄はリサイクルができることであり、サステナブルにインフラを維持する上で重要な要素です。



●リサイクルによる 環境負荷低減

古い鋳鉄管は、新しいダクタイル鉄管や他の鉄鋼材料に繰り返しリサイクルされることで、循環型社会の構築に貢献します。



長岡教授：水道技術研究センターの管路の研究で、脱炭素化やエネルギー消費をテーマにしたプロジェクトに私も関わりました。水道事業において環境面で大きな影響があるのはポンプの電力となります。また、細かいことですが使用する薬品を減らすことも一つの取り組みです。管路工事における、素材の運搬も含めたエネルギー消費は、無視できません。長寿命で強靭なダクタイル鉄管を使用することで、管路工事が少なくなることは大きなメリットです。

製造面では、キュボラから電気炉への転換、バイオ燃料を使用されていることも環境を意識されており、そのような工夫の積み重ねは高く評価できます。脱炭素化や省エネルギーは、一

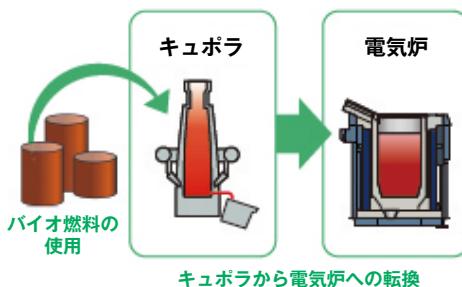
遍にできることではありませんので、細かな積み重ねが重要です。

—当協会の環境への取り組みのPRについては、いかがでしょうか。

長岡教授：私もセミナーの講師は何度か承ったこともあります、一般市民に向けての広報PRをもっと行うべきです。老朽化対策＝耐震化については、関心が高まっていると思いますが、PRの中身として、管路更新する際に費用がかかること、地震に強い管に取り替えるなどの告知はされていると思いますが、素材の部分まで広報されていません。ダクタイル鉄管とは何で

●製造面における取り組み

会員各社はダクタイル鉄管の製造時や配送時のCO₂削減、廃棄物低減等に取り組んでいきます。



セミナーの開催

あるか、そしてその利点、メリットを強調することで、脱炭素化と環境負荷を低減している旨のPRを要望します。難しいのですが、広報については分かりやすく丁寧に行っていただければと思います。

一水道週間などでパネルや機材の貸出は行っているのですが。

長岡教授：おそらく一般市民には、水道管の素材までの認識に至っておらず、深く理解していないのではと想像します。それを正確に広報PRしていただければと考えています。一般市民向けにダクタイル鉄管を理解できる、分かりやすいツールを作成いただければ良いのではと思います。

例えば、事業体が更新工事を実施する際にダクタイル鉄管を使うことで、それは環境にも優しいことをPRしてもらえばと思います。

水道局のPRにおいても、「ダクタイル鉄管の耐震管にすること＝地震に強い新しい管にする」それだけであると認識されています。そこにダクタイル鉄管を使用することは環境面においても貢献している部分を強調していただければと思います。

正確な広報PRを長期間にわたって継続して行うことで、ダクタイル鉄管の強みを浸透させていくことが重要ではないでしょうか。広報PRは効果がすぐにあらわれるものではありません。

一環境省のグリーンバリューチェーン・プラットホームにおいて当協会はネットワーク会員の支援会員となっています。

長岡教授：支援会員となっていることも事業体にアピールすべきです。脱炭素化も数字で表すこと、そして年々、CO₂排出量が減少していることをPRすることが重要です。



●使用面における取り組み

強靭で長寿命な管路を構築することで、災害復旧や老朽化による更新工事で発生するCO₂を抑制します。

地震（自然災害）に強い	優れた耐久性・耐食性
A diagram showing several buildings of different heights and colors (blue, grey, white) on a ground surface. Small yellow zigzag lines representing seismic waves are shown passing through the ground, with arrows indicating they are being absorbed or transmitted by the buildings.	A diagram showing a progression of buildings. On the left, there are simple traditional-style houses. In the middle, there are more modern buildings. On the right, there are very tall, modern skyscrapers. A yellow arrow points from the left towards the right, labeled "長期使用後" (After long-term use).
<p>耐震継手は伸縮・屈曲し、管路が地盤変動に追従し、地震などの災害に強い管路を構築します。</p>	<p>管外面には防食対策、内面には粉体塗装を施すことで、耐食性・耐久性を持たせ、長期間使用できます。</p>

一水管路における環境面での課題と当協会に今後期待することは。

長岡教授：今後の水道界における課題として脱炭素化が謳われていますが、“水道事業体だけの課題”となっていないでしょうか。水道事業体は素材の部分にもこだわりをもつべきです。前提として、水道に関わるすべての分野で総合的に脱炭素化を進める視点が必要です。

先ほども述べたように、水道事業で最もエネルギーを使用する部分はポンプです。水道界における脱炭素化の最も大きな課題は、ポンプのエネルギーをどのようにして減少させるかです。今後、各水道事業体は広域化とともに、上流取水が一つのテーマとなると考えています。もちろん古い浄水場を更新にあわせて集約、そして水源も上流に変更する話があるかと思います。

その際に最も重要なことは導水、送水、配水の基幹管路のシステムを根本的に変更しなけれ

ばなりません。広域化や上流取水に伴い、事業体の基幹管路を再構築する上で、貴協会にはダクタイル鉄管の素材は鉄で、リサイクルできることを強調し、再構築に協力できる体制でいてほしいと考えています。

今後、大口径管の更新は必須となります。水道システムの再構築において、長寿命や強靭化、漏水が少ないなどのメリットを活かすことで、脱炭素化や循環型社会の実現に貢献していただけることを期待しています。

一ありがとうございました。



誌上講座

大口径(呼び径 500~1000)

耐震継手ダクタイル鉄管の
異形管まわりの一体化部の
設計が簡単になりました。

1. はじめに

ダクタイル鉄管管路の曲管部、T字管部、片落管部などの異形管部には水圧による不平均力が働く。この不平均力により異形管部が移動し、他の埋設物に悪影響を及ぼす、地盤が盛り上がるといった問題が発生する可能性があるため、適切な対策が求められる。異形管防護として、離脱防止継手などを用いて管路を一体化する方法や、異形管部に防護コンクリートを打設する方法がある。管路の一体化による異形管防護では、異形管部に作用する不平均力に対して、管と土との摩擦力や管背面の地盤反力、離脱防止継手の曲げ剛性によって管路の移動を防止することが基本的な考え方である。この不平均力に対抗するため

に一体化が必要な管の延長を「一体化長さ」という。

一体化長さは、異形管の種類や形態に応じて定められた計算式に土かぶり、設計水圧等の管路の設計条件を入力することによって算出してきた。しかし、従来の計算方法は煩雑であり、管路形態を考慮する必要があるため管路設計に熟練が求められた。

このような背景の中、小中口径(呼び径 50~450)の曲管部及び T 字管部についてはマニュアルが公開され、早見表を用いて一体化長さを簡単に求めることができるようになった。今回、新しく GX 形、NS 形の呼び径 500~1000 の大口径管においても早見表が公開され、一体化長さの設計が簡略化された。

ここでは、大口径の一体化長さ早見表の概要について説明する。

2. 大口径一体化長さ早見表の概要

2.1 適用条件

適用できる管路の条件を以下に示す。これらを一つでも満足しない場合は、一体化長さ早見表を適用できないため、別途計算式により算出する必要がある。

- (1) 呼び径 : 500 ~ 1000
- (2) 継手形式 : GX 形及び NS 形
- (3) 設計水圧 : 1.3MPa 以下
- (4) 土かぶり : 1.2 m 以上
- (5) 埋め戻し条件 : 一般的な埋め戻し土で N 値 5 程度以上の締め固めによる

2.2 一体化長さ

曲管部、T字管部、S ベンド部及び伏せ越し部の一体化長さは、表1、2、3-1、3-2、4-1、4-2 の早見表から選定する。これらは異形管に隣接する管の最低限の必要一体化長さを示したものである。また、一体化長さに異形管の長さは含めないものとする。

2.3 小口径管の早見表との相違点

大口径管における一体化長さを確保する方法は、基本的には小口径管における考え方と同じである。

しかし、S ベンド及び伏せ越し管路においては考え方方が異なる。小口径管では、モーメントアームにかかわらず曲管管路と同じ一体化長さを確保すればよい。それに対し大口径管では、モーメントアームの違いによる継手部に発生する曲げモーメントの違いが無視できないため、モーメントアームごとに設定

された一体化長さが異なることに注意する必要がある。

1) 曲管部

- ・単独曲管部では曲管の両側に一体化長さを確保する。
- ・同一面内で角度を増す方向に、直結または 1 m 未満の直管を接続する場合には、曲がり角度を合計した複合曲管部として扱う。

2) T 字管部

- ・本管側、枝管側に表2の一体化長さを確保する。
- ・T字管部の枝管側に曲管がある場合、T字管の枝管側に確保する一体化長さと、隣接する曲管の一体化長さとを比べて長い方の一体化長さを確保する。

3) 45° を超え 90° 以下の曲管を含む

複数の曲管で構成された管路

- ・90° 曲管の一体化長さと直線部へつながる最後の曲管の一体化長さのうち長い方を採用する。

4) S ベンド部

- ・垂直 S ベンドの場合はモーメントアームごとに設定された一体化長さ Lp1、Lp2 をそれぞれ確保する。
- ・水平 S ベンドの場合は両側ともに Lp1 を確保する。

5) 伏せ越し部

- ・モーメントアームごとに設定された一体長さを両側に確保する。
- ・水平切り回し部も同一の値を適用できる。

3. 大口径一体化長さ早見表

以下に、呼び径 500 ~ 1000 の異形管部 (曲管部、T字管部、S ベンド部、伏せ越し部) に適用できる一体化長さを示す。

3.1 曲管部の一体化長さ

表 1 曲管部の一体化長さ早見表

曲管角度	呼び径	土かぶり1.2m		土かぶり1.5m		土かぶり1.8m以上	
		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)	
		0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3
45° を超え 90° 以下	500	8.0	16.0	6.5	13.0	6.5	12.0
	600	9.5	17.0	8.0	16.0	7.0	14.0
	700	10.5	19.0	9.0	17.0	8.0	15.5
	800	11.5	21.5	10.0	19.0	8.5	17.0
	900	12.0	22.0			9.0	18.0
	1000	13.0	24.0	12.0	22.0	11.0	20.0
22.5° を超え 45° 以下	500	1.0	6.0	1.0	4.0	1.0	3.5
	600	2.0		2.0	5.0	2.0	5.0
	700	3.0	7.0	2.5	6.0	2.5	6.0
	800			3.0	7.0		7.0
	900			4.0	3.0	9.0	
	1000	10.0	4.0	9.0	4.0	9.0	9.0
22.5° 以下	500	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	600						
	700						
	800						
	900						
	1000						

備考 1) 単独曲管部では曲管の両側に一体化長さを確保する。

2) 曲管が 2 個以上の複合曲管部で 90° を超え 112.5° 以下の角度であれば、上表の 45° を超え 90° 以下の曲管部の一体化長さをそのまま適用できる。ただし、112.5° を超える角度については管端部の一体化長さを用いる。

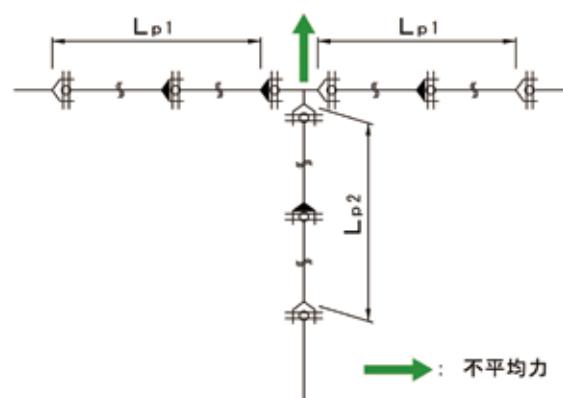
3.2 T字管部の一体化長さ

表2 T字管部の一体化長さ早見表

本管側 呼び径	枝管側 呼び径	土かぶり1.2m				土かぶり1.5m以上					
		設計水圧 (MPa)				設計水圧 (MPa)					
		0.75		1.3		0.75		1.3			
		Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2		
500	350	1.0	1.0	1.5	6.0	1.0	1.0	1.5	6.0		
	400		2.0	2.5			2.0	2.0			
	450		4.0	3.0			3.0	3.0			
	500		6.0	9.5	5.0		8.0				
600	400	1.0	1.0	1.5	6.0	1.0	1.0	1.5	6.0		
	450		2.0	2.5			2.0	2.5			
	500		4.0	3.0			3.0	3.0			
	600	2.0	6.0	3.5	11.5	2.0	6.0	3.5	10.0		
700	450	1.0	1.0	1.5	6.0	1.0	1.0	1.5	6.0		
	500			2.5				2.5			
	600		5.0	4.0			4.0	4.0			
	700	2.5	6.0	13.5	2.5	6.0	13.0				
800	500	1.0	1.0	2.5	6.0	1.0	1.0	1.5	6.0		
	600		3.0	3.5			2.0	3.5			
	700	2.5	6.0	5.0			6.0	5.0	7.0		
	800	3.0						13.0			
900	600	1.5	3.0	3.0	6.0	1.0	2.0	3.0	6.0		
	700	2.0	6.0	4.5			4.0	6.0			
	800	3.0		5.5	9.5	2.5	5.5	8.0			
	900	3.5			16.5	3.5		14.0			
1000	600	1.0	1.0	3.0	6.0	1.0	1.0	3.0	6.0		
	800		4.0	5.5			4.0	5.0			
	1000	4.0	6.0	20.0	4.0	6.0	5.5	17.5			

備考 1) 枝管が本表に示す呼び径より小さい場合は、小中口径のT字管部一体化長さ早見表の値を用いてよい。

2) 土かぶり 1.8m の一体化長さは土かぶり 1.5m の場合と同じ。



3.3 Sベンド部の一体化長さ

表 3-1 垂直Sベンド部の一体化長さ早見表(曲管角度:45°を超える90°以下)

曲管角度	モーメントアーム	呼び径	土かぶり1.2m				土かぶり1.5m				土かぶり1.8m以上			
			設計水圧 (MPa)				設計水圧 (MPa)				設計水圧 (MPa)			
			0.75		1.3		0.75		1.3		0.75		1.3	
			Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2
45°を超える 90°以下	直結	500			6.0	1.5	1.0	6.0	6.0		1.5	1.0	6.0	
		600			6.5									
		700				2.0	1.5							
		800			6.5			6.5	6.5		2.0	1.5	6.5	6.0
		900				2.5	2.0				2.5	2.0		
		1000												
	3m以下	500	9.5	6.0	18.0	11.5	8.0	6.0	15.0	11.0	6.5	6.0	12.5	11.0
		600				12.5		6.5		12.5				12.5
		700	10.5	7.5	18.5		9.0		16.5		7.5	6.5	13.5	
		800			13.5		7.0		13.5					13.0
		900	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		1000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 1) モーメントアーム 2m 以下及び呼び径 900 と 1000 におけるモーメントアーム 3m 以下の場合、切管長さが 1m 以下となり配管できないため一体化長さの設定なし。

2) 土かぶりは Lp1 側を示す。

3) 水平Sベンドの場合は左右とも Lp1 の一体化長さを確保すればよい。

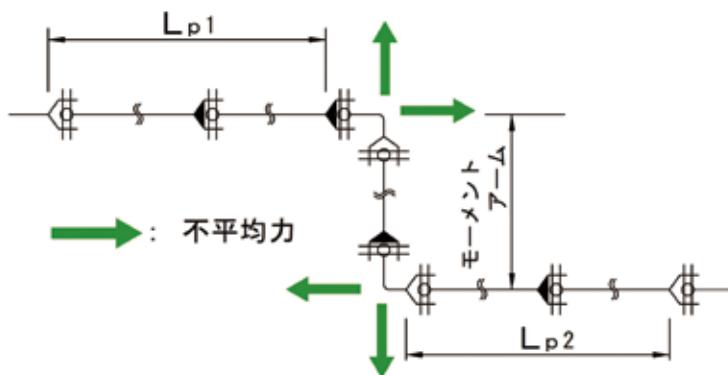


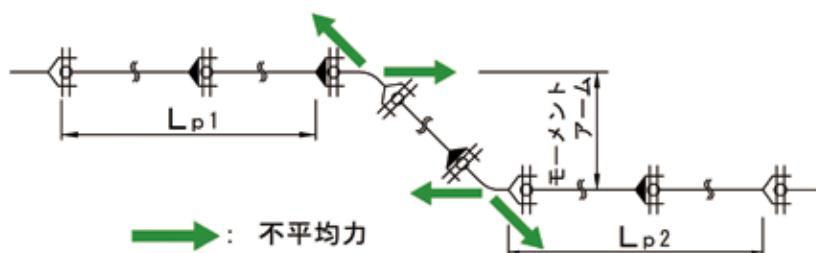
表 3-2 垂直 S ベンド部の一体化長さ早見表 (曲管角度: 22.5° を超え 45° 以下)

曲管 角度	モーメ ント アーム	呼び径	土かぶり1.2m				土かぶり1.5m				土かぶり1.8m以上					
			設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)			
			0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3		
			Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2	Lp1	Lp2		
22.5°を超え 45°以下	直結	500	1.0													
		600		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
		700														
		800														
		900														
		1000														
	2m 以下	500	1.0			5.0	1.0	6.0	5.0	1.0	6.0	5.0	1.0	6.0		
		600		1.0	1.0	7.0		1.0	6.0		1.0	6.0		7.0	6.0	
		700		3.0	2.0	8.0	2.0	2.0	7.0	2.0	2.0	7.0	3.0	3.0		
		800		4.0	3.0		4.0	3.0	8.0		2.0			8.0	7.0	
		900					4.0	3.0	8.0		7.0					
		1000														
	3m 以下	500	1.0	1.0	1.0	7.0	5.0	1.0	6.0	5.0	1.0	6.0	5.0	1.0	6.0	
		600	3.0		3.0	10.0	6.0	3.0	7.0	6.0	2.0	7.0	7.0	6.0	7.0	
		700	4.0	2.0			7.0	2.0	9.0	7.0	3.0	2.0	7.0	4.0	10.0	
		800	5.0	3.0	11.0			4.0	3.0	10.0	7.0					
		900														
		1000														

備考 1) 土かぶりは Lp1 側を示す。

2) 水平 S ベンドの場合は左右とも Lp1 の一体化長さを確保すればよい。

3) 曲管角度が 22.5° 以下の場合は表 1 を用いてよい。



3.4 伏せ越し部の一体化長さ

表 4-1 伏せ越し部の一体化長さ早見表 (曲管角度: 45° を超え 90° 以下)

曲管角度	モーメントアーム	呼び径	土かぶり1.2m		土かぶり1.5m		土かぶり1.8m		
			設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		
			0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	
45° を超え 90° 以下	直結	500	6.5	11.0	6.5	9.5	6.5	9.0	
		600	7.5	13.5		11.0		9.5	
		700		14.0	7.5	13.5		10.5	
		800	8.0	14.5			7.0	12.0	
		900						7.5	
		1000						13.0	
	3m 以下	500	9.5	18.5	8.0	15.5	6.5	13.0	
		600	11.0	20.0	9.5	18.0	8.0	15.5	
		700	12.0	21.5	10.5	19.0	9.5	17.5	
		800	12.5		11.0	19.5	10.0		
		900	—		—	—	—	—	
		1000	—		—	—	—	—	

備考 1) モーメントアーム 2m 以下及び呼び径 900 と 1000 におけるモーメントアーム 3m 以下の場合、切管長さが 1m 以下となり配管できないため一体化長さの設定なし。

2) 水平切り回し部の一体化長さも全く同一となる。

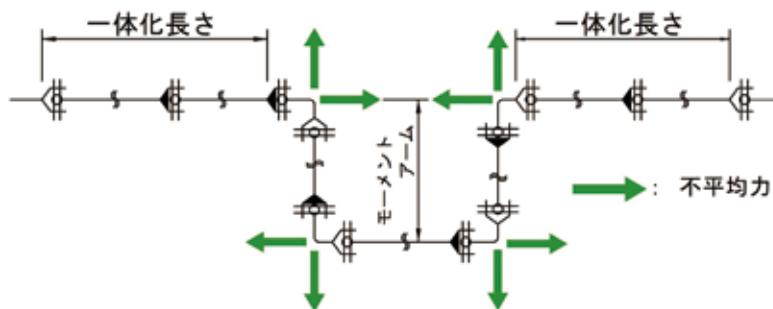
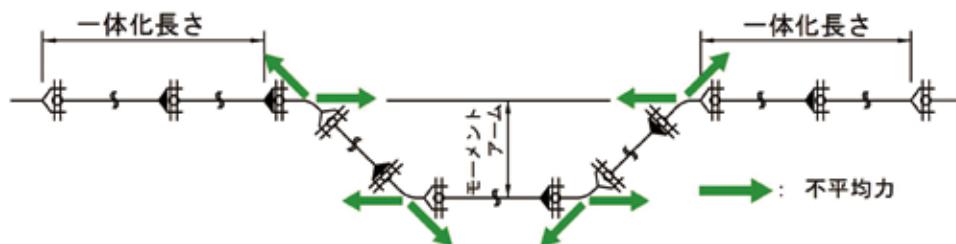


表 4-2 伏せ越し部の一体化長さ早見表 (曲管角度: 22.5°を超える 45°以下)

曲管角度	モーメント アーム	呼び径	土かぶり1.2m		土かぶり1.5m		土かぶり1.8m		
			設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		設計水圧 (MPa)		
			0.75	1.3	0.75	1.3	0.75	1.3	
22.5°を超える 45°以下	直結	500	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
		600							
		700							
		800							
		900							
		1000							
	2m 以下	500	6.0	13.0	5.0	12.0	4.0	10.0	
		600	7.0		6.0	13.0	5.0	12.0	
		700							
		800							
		900							
		1000							
	3m 以下	500	6.0	13.0	5.0	12.0	4.0	9.0	
		600	7.0	15.0	6.0	13.0	5.0	12.0	
		700		18.0	7.0	15.0	6.0	13.0	
		800							
		900							
		1000							

備考 1) 曲管角度が 22.5°以下の場合は表 1 を用いてよい。

2) 水平切り回し部の一体化長さも全く同一となる。



4. 留意点

4.1 適用範囲外の管路

表 1、2、3-1、3-2、4-1、4-2 に示す一体化長さは、以下の管路には適用できないため注意が必要である。

- ① 設計水圧が 1.3MPa を超える場合
- ② S ベンド部及び伏せ越し部で、モーメントアームが 3m を超える場合など、表 3-1、3-2、4-1、4-2 に記載のない配管の場合
- ③ K 形、T 形管路及び K 形、T 形管路で異形管部のみに GX 形、NS 形を使用する管路

4.2 既に設計された管路への対応

従来からの計算式により算出された一体化長さは、早見表記載の一体化長さよりも長く、水圧による不平均力に対してより安全側となる。このため、既設あるいは既に設計された管路に対する布設替えや設計変更等の対応は不要である。

4.3 既設管路等との接続

K 形、T 形などの既設の一般管路と新設の耐震管路の連絡部には、早見表の一体化長さは適用できない。ただし、連絡部そのものに不平均力が生じておらずかつ連絡部に最も近い新設管の不平均力作用箇所までの離隔距離 L が早見表の一体化長さの 2 倍あるいは計算による従来の一体化長さ以上に離れている場合は、連絡部から十分離れているものとみなし、その不平均力作用箇所には表 1、2、3-1、3-2、4-1、4-2 の一体化長さをとってよい。

4.4 管路末端部及び仕切弁近傍に曲管がある場合の一体化長さ

管路末端部、及び仕切弁近傍に曲管がある場合は、早見表の一体化長さを適用できない。この管端部の一体化長さを確保する場所は、曲管の両側に管端部の一体化長さを分けて確保しても良い。また単独曲管部、S ベンド部、及び伏せ越し部等の曲管部の近傍に仕切弁がある場合についても、管端部の一体化長さを曲管の両側や仕切弁をはさんで確保しても良い。

4.5 水圧

水圧は 0.75MPa、1.3MPa の 2 種類であり、これと異なる水圧の一体化長さを比例配分するなどして求めることはできない。

4.6 T 字管

T 字管の適用範囲は、枝管だけでなく本管も呼び径 1000 以下である場合となる。

4.7 事業体の設計基準との整合

事業体が本手法による設計法を採用していない場合は、事業体からの指示を優先するものとする。

5.FEM 解析

5.1 解析方法

従来の一体化長さは、管路を継手のない一本の弾性支床上の梁として計算していた。本解析では、実際の耐震継手管路により近づけるため、継手特性も考慮した。図1に解析モデルを示す。継手部及び地盤と管路はそれぞれ固有の「ばね」で結ばれている。

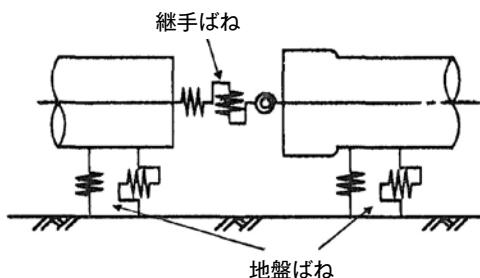


図1 解析モデル

FEM解析における計算条件を以下に示す。

- (1) 設計水圧: 0.75MPa、1.3MPa
- (2) 管路の土かぶり: 1.2m、1.5m、1.8m
- (3) 地盤反発力: 3000kN/m³
- (4) 管と土の摩擦係数: 0.2

5.2 判定条件

一体化長さを0.5m単位で増加させたときに、次の条件を満たす長さを必要な一体化長さとする。

- ①非一体化継手の継手伸び量が10mm以下
- ②継手部の発生曲げモーメントが、継手性能に対して安全率2.5以上

5.3 解析例

ここでは、呼び径600、設計水圧1.3MPa、土かぶり1.2mにおける解析結果の一例を示す。他口径についても同様の解析を行い、表1、2、3-1、3-2、4-1、4-2に示した一体化長さを決定した。

1) 曲管部

図2に45°曲管及び90°曲管の単独部での解析結果を示す。必要一体化長さは45°曲管で6m、90°曲管では17mとなる。本解析では継手部の曲がりを考慮しているため、管路の動きが大きくなり、それに伴い地盤反力も増加する。その結果、従来の計算により算出した必要一体化長さよりも短くなっている。

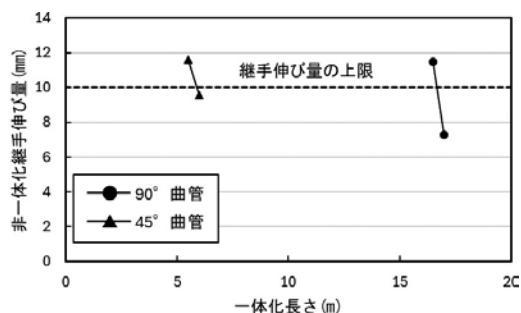


図2 曲管部での解析結果
(呼び径600、設計水圧1.3MPa、土かぶり1.2m)

2) T字管部

T字管部の解析結果を表5に示す。本管側の一体化長さを3.5m、枝管側の一体化長さを11.5m確保すればよいことがわかる。

表5 T字管部での解析結果(呼び径600、設計水圧1.3MPa、土かぶり1.2m)

本管側呼び径	枝管側呼び径	一体化長さ (m)		非一体化継手最大伸び量 (mm)	曲げモーメントの安全率
		本管側	枝管側		
600	600	3.5	11.5	9.0	28.0

3) 曲管の組み合わせ部、Sペンド部、伏せ越し部

図3～5に示す45°曲管を用いた曲管の組み合わせ部、Sペンド部、伏せ越し部での解析

結果を表6に示す。解析の結果、45°曲管を用いた管路において、小中口径の場合とは異なり、大口径においては配管形態によって必要一体化長さは大きく異なることが示された。

表6 曲管の組み合わせ部、Sペンド部、伏せ越し部での解析結果
(呼び径 600、設計水圧 1.3MPa、土かぶり 1.2m、モーメントアーム 3m 以下)

対象管路	一体化長さ (m)	非一体化継手最大伸び量 (mm)	曲げモーメントの安全率
45°曲管	6	9.6	7.7
曲管の組み合わせ部	17	7.3	11.7
Sペンド部	7	6.2	3.5
伏せ越し部	15	9.2	9.3

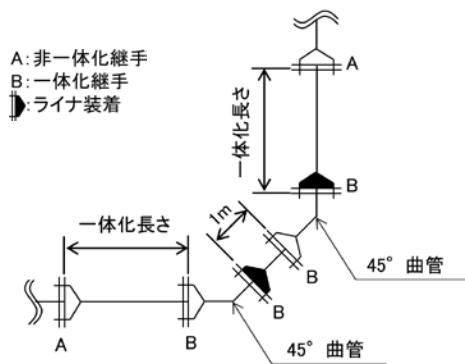


図3 曲管の組み合わせ部

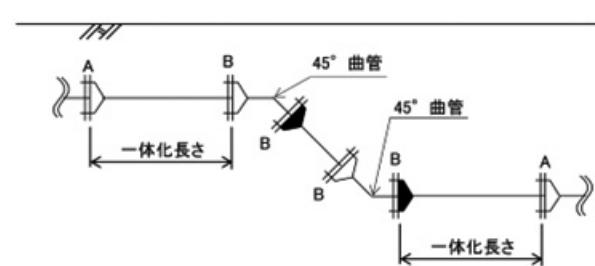


図4 Sペンド部

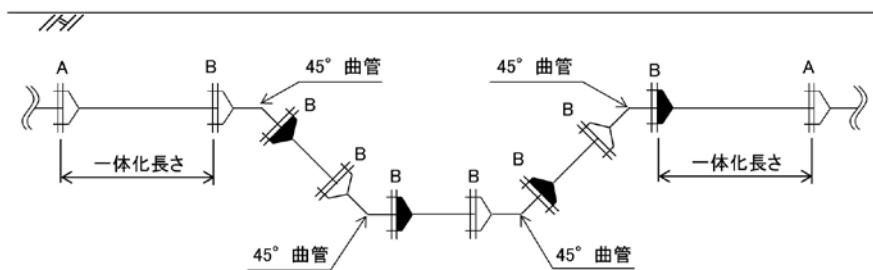


図5 伏せ越し部

6. 埋設実証試験結果

図6に示す試験管路で、早見表記載の一体化長さについて管路挙動の実証試験を行った。ここでは、早見表の値である9.5mよりも短い9mに一体化長さを設定し、実証試験を行った。管路には全てポリエチレンスリー

ブを装着し、異形管の背後には埋め戻しを行わなかった。表7に水圧0.75MPaを負荷したときの非一体化継手(A~H)の最大伸び量を示す。水圧0.75MPaを繰り返し負荷しても、継手の最大伸び量が累積して増加することなく、一体化長さの安全性が検証できた。

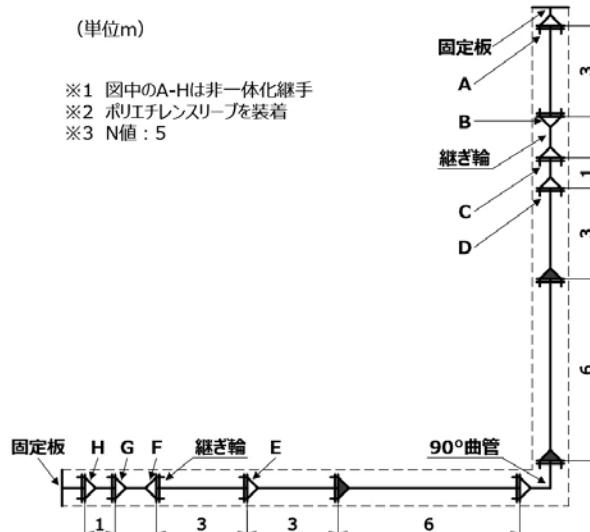


図6 埋設実証試験管路の例

継手位置		A	B	C	D	E	F	G	H	単位: mm
水圧										
0.75 MPa	1回目	1.9	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	2.2	7.7	
	2回目	1.9	0.9	0.1	0.2	0.2	0.1	2.2	8.8	
	3回目	1.9	1.2	0.1	0.1	0.2	0.1	2.2	9.3	

表7 非一体化継手の最大伸び量
(呼び径600、土かぶり1.2m)

7. おわりに

本一体化長さに関する詳細マニュアルは、日本ダクタイル鉄管協会技術資料「NS形・S形ダクタイル鉄管管路の設計(JDPA T35)」

及び「GX形ダクタイル鉄管管路の設計(JDPA T57)」に掲載しているので、ご活用いただきたい。

新顧問就任のご挨拶 【関東支部】



関東支部 顧問就任のご挨拶

関東支部 顧問 鈴木 雅彦

本年4月に関東支部顧問に就任しました鈴木雅彦と申します。

前職の横浜市水道局には38年間勤務しておりました。

これまでの当協会との関わりとしては、令和3年にセミナーの講師として、千葉会場において、「水道料金改定と管路更新」というタイトルで20年ぶりに横浜市水道局で実施した料金改定と管路更新時におけるダウンサイ징を中心とした話をさせていただきました。

また、15年ほど前に当協会の会員企業と共同研究を実施していた時に、当時、口径100mmや150mmの既設管の更新・耐震化にあたり、口径50mmで十分なところにも、ダクタイル鉄管の50mmがないために、仕方なく口径75mmを使用していたこともあり、50mmのダクタイルの耐震管の製品化を強くお願いし、S50形の製品化、規格化につながりました。

横浜市水道局時代に担当した業務を一部ご紹介させていただきます。小雀浄水場勤務時には、クリップ式ポリジウム対策として、ろ過池の逆洗のスローダウン、スロースタートや、脈動式高速凝集沈殿池への傾斜管の設置をはじめとした各種濁度管理強化対策を実施しました。また、計画課事業計画係長の時には、浄水場の更新をまるごとPFIで実施するという川井浄水場再整備事業に関わりました。配水部では、管路更新時における本格的なダウンサイ징に向けた取組みなどがあります。最後の3年間は水道技術管理者として、神奈川県内の5事業者で、水需要の減少、施設の老朽化や水質事故等への対応強化など、共通する課題の解決に向けて、将来を見据えた水道システムの再構築(水道施設の再構築、上流取水の優先的利用、取水、浄水の一体的運用)の検討や実現にあたっての施設整備計画の策定や小雀浄水場廃止の決定などが挙げられます。

担当エリアは神奈川県、山梨県、そして長野県ですので、担当エリアの皆様には協会誌の配布や技術説明会・継手接合研修会などの機会にご挨拶させていただければと思います。

色々な意味で今まさに転換期だと思います。昨年、水道行政の所管が厚生労働省から国土交通省、環境省へ移管され、上下水道一体での施設整備ということが求められ、国からの交付金など変化が出てきています。

こうした変化がある中でも、水道に求められる安全で良質な水道水を安定的に供給し続けるということに変わりはないと思います。顧問として微力ながら尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

新支部長就任のご挨拶 【関西支部】



関西支部長就任のご挨拶

関西支部 支部長 **山野 一弥**

私はこの4月に日本ダクタイル鉄管協会関西支部長に就任いたしました山野でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は、大阪市役所に技術職(土木)として採用され、退職するまでの35年間をずっと水道局で過ごしました。また、その後、公益社団法人日本水道協会大阪支所に5年間在籍させていただきました。

この間、いろいろな場で多くの皆様方にお世話になってきましたが、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。また、初めての方におかれましては、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、大阪市水道局に在籍していた際は、そのほとんどを設計担当の部署と事業計画担当の部署で過ごしました。設計担当の部署では、浄水場内における配水池や浄水施設の設計、従来の急速砂ろ過方式にオゾン・活性炭処理を付加する高度浄水施設の設計、市内の配水幹線や小管の設計など、水道事業における土木関係のあらゆる設計を経験することができました。

また、事業計画担当の部署では、浄水施設の更新・整備、配水管の更新・整備、高度浄水施設の建設をはじめとする各種事業計画等の立案、進捗管理などに従事していました。また、震災対策(危機管理)を担当した時期もあり、災害対策マニュアルの整備やBCPの策定に携わった他、各地で発生した地震災害等に対する応援部隊の派遣を調整したり、国が派遣する地震被害に係る調査団へ参加したりしてきました。

その後の公益社団法人日本水道協会においては、検査・認証事業を主として協会事業に携わらせていただいた他に、西日本各地の水道事業体の審議会等に委員として参加させていただきました。これにより、各事業体の直面する課題の解決に向けたお手伝いさせていただき、水道事業を運営することの難しさを再認識したところです。

冒頭で申し上げましたように、4月から一般社団法人日本ダクタイル鉄管協会の一員として、引き続き上下水道事業に関わらせていただくことになりました。これからも、当協会の活動を通じ、微力ながら皆様のお役に立てるように努めてまいりたいと考えています。

また、当協会に入り、これまで以上に上下水道事業体の皆様や行政に携わる皆様と接する機会が増えました。これからも、皆様方と顔を合わせる機会がありましたら、こちらから近寄っていきますので、ぜひお付き合いいただければと思いますし、皆様方からも気軽にお声掛けいただければと思います。よろしくお願ひします。

新顧問就任のご挨拶 【関西支部】



関西支部 顧問就任のご挨拶

関西支部 顧問 田中 孝昌

2025年4月より関西支部顧問を務めさせていただいております田中孝昌と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は1987年に神戸市役所に入庁した後、38年間の公務員生活のうち33年間を水道局にて過ごし、水道事業および工業用水道事業に長く携わってまいりました。

入庁当初に水道施設の計画・設計を担当した後、8年目には阪神・淡路大震災が発生し、震災当日から3ヶ月間は電話対応、応急給水、災害査定、復興計画の検討などに従事しました。その後は、水道施設の耐震化基本計画の策定や、大容量送水管整備や配水管耐震化など、個別の施設計画作成に携わりました。震災から2年目以降は技術部門の各部署を異動しながら、事業の再評価や計画変更のほか、震災直後の復旧期間のさらなる短縮につながる各種施策の追加検討や実施にも取り組みました。

国際技術支援ではJICAの開発調査に参加し、イランを3回訪問しました。神戸市の耐震化事例を紹介したほか、約4万人の死者が出た2003年バム地震の被災地にも行き、建物被害の甚大さや直後の州政府の迅速な対応等について学ぶ機会を得ました。また、2010年から始まった「水・インフラ整備に関する国際貢献」ではベトナムやミャンマーを訪問し、水源から蛇口までの施設整備や運営支援を通じて、水道事業の奥深さと魅力を実感しました。

直近5年間は水道技術管理者として、27年ぶりの料金改定、能登半島地震支援、DX推進などに取り組み、インフラ事業運営全般に関わる水道の仕事に改めてやりがいを感じました。

現在、水道界では「強靭で持続可能な上下水道システムの構築」に向けた取り組みが進められています。私もこれまでの経験を活かし、水道管路の耐震化推進や事業体の課題解決に向けて、微力ながら協会の活動に貢献してまいりたいと考えております。

趣味はテニスと旅行です。旅行は自転車や歴史街道、鉄道をテーマに行き先を決めて楽しんでおります。共通の趣味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ気軽にお声がけいただければ嬉しく思います。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

新支部長就任のご挨拶 【中国四国支部】



中国四国支部長就任のご挨拶

中国四国支部 支部長 村上 裕之

本年4月から中国四国支部長に就任した村上裕之です。

3月まで在籍した広島市には平成2年に入庁し、34年間の役所人生ほとんどを水道一筋で過ごしました。主に財務会計や事業計画立案など経営に関する業務に携わりました。

在任中は机上で考えるより可能な限り実地で確認したいとの想いがありました。そこでまずは給水区域を一望しようと高台に上りました。周囲を見渡すと、幾重にも連なるビル群やはるか遠く豆粒にみえる家々、瀬戸内海に浮かぶ島々が眼下に広がります。

広島市の場合、3か所の主要な取・浄水場からこれらの区域に向けて給水しています。言い換えると、川からつながる3本の水道管が1本また1本と枝分かれして5,000キロメートルに及ぶ管路ネットワークを形成し水道システムを構築しています。

これもひとえに官と民それぞれの先人たちが長い年月をかけて知恵や工夫を凝らして発展させてくれたおかげだなと感じるとともに、この水道システムを更に進化させ次代へ確実につなぐ役割を託されたと感じました。

さりとて入庁当時の私は若かったということでしょう。水道事業に対して強い思い入れを抱いていたわけではありませんでした。そうした中、転機と捉えているのが平成7年に発生した阪神・淡路大震災です。発災直後、応急給水応援のため神戸市派遣を命じられました。現地へ赴くと崩壊した高速道路の橋脚や陥没した道路、焼け焦げた火災の跡など被害の生々しさが色濃く残っていました。神戸市職員の方々は、おそらく自らも被災されたと思しき中にあっても、我々応援隊が円滑に活動できるよう細やかに配慮した対応を行ってください、また応急給水に出向いた際には市民の方々から大変感謝していただきました。この一連の応援活動を通じて得た経験は、矜持を持って水道事業に関わっていくことの重要性を考える契機になったと感じています。

「蛇口をひねれば当たり前のように水が出る」

平時はもとより災害時にもこれを実現するためには、何よりもまず「市民の水がめは自分が守る」という強い信念が大切だと思っています。現在、協会セミナーやウォータークラブ等を通じて官民の方々と情報交換を重ねていますが、今後、矜持を持った関係者を育成・輩出する一助となれるよう、多様な関係者をつなぐ「ハブ」(結節点)としての役割をしっかり努めていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひします。

協会ニュース

2025年度ダクタイル鉄管協会セミナー開催予定

日本ダクタイル鉄管協会では管路に限定することなく、水道事業に関する最新の情報や先進事業体の実例に関するセミナーを学識者や事業体職員を講師に招いて、全国16会場（一部WEB配信）で実施しています。

支部	開催日・開催場所	講 師	テマ
北海道	10月22日(水) 札幌市 終了しました	八戸圏域水道企業団 工務課 課長 大嶋 武仁 氏	ICT 技術を活用した耐震管の品質管理
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏	能登半島地震における ライフライン被害・復旧の教訓と課題
東北	10月22日(水) 仙台市 終了しました	新潟市水道局 技術部長 川瀬 悅郎 氏	新潟市における令和6年能登地震対応 ～ソフトとハードの強靭化～
		金沢大学 名誉教授 宮島 昌克 氏	2024年能登半島地震から学ぶ 水道耐震化の課題
関東	11月11日(火) 盛岡市	香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐 遠藤 智義 氏	香川県広域水道企業団における 広域連携の取組について
		名古屋大学 減災連携研究センター 准教授 平山 修久 氏	過去を学び、これからの危機を乗り越える
関東	8月26日(火) 新潟市 終了しました	横浜市水道局 担当理事 江夏 輝行 氏	横浜市水道局の取り組み ～料金改定と施設の更新・耐震化～
		筑波大学 情報システム系 教授 庄司 学 氏	巨大地震災害における水道施設の被害の 特徴と今後の施策について ～2024年能登半島地震被害から学ぶべきこと～
関東	9月4日(木) 水戸市 (WEB併用) 終了しました	香川県広域水道企業団 計画課 課長補佐 遠藤 智義 氏	香川県広域水道企業団における 広域連携の取組について
		金沢大学 名誉教授 宮島 昌克 氏	2024年能登半島地震から学ぶ 水道耐震化の課題
関東	10月24日(金) さいたま市 終了しました	公益財団法人水道技術研究センター 調査事業部 主任研究員 小寺 翼 氏	スマート水道メーターの効果と課題 ～New-Smartプロジェクトの取組～
		福山市立大学 都市経営学部 准教授 清水 聰行 氏	水道事業の持続性を確保するために
関東	12月12日(金) 横浜市	新潟市水道局 技術部長 川瀬 悅郎 氏	新潟市における令和6年能登地震対応 ～ソフトとハードの強靭化～
		岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 能島 暢呂 氏	能登半島地震における ライフライン被害・復旧の教訓と課題
関東	1月20日(火) 千葉市	神戸市水道局 副局長 坂田 昭典 氏	未定
		日本水道協会 総務部総務課 担当課長 二宗 史憲 氏	未定

支部	開催日・開催場所	講 師	テー マ
関東	開催日未定 東京都 (WEB開催)	未定	未定
		未定	未定
中部	11月20日(木) 名古屋市	珠洲市役所 環境建設課 課長 大宮 準司 氏	未定
		近畿大学 経営学部 教授 浦上 拓也 氏	未定
関西・ 中国四国 共催	8月28日(木) 徳島市 終了しました	京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授 伊藤 穎彦 氏	料金値上げを円滑に進めることを目的とした 市民とのコミュニケーション技術
		明石市上下水道局 水道室長 辻 和也 氏	管路更新効率化の取り組み
関西	12月9日(火) 大阪市	京都大学 大学院地球環境学堂 地球益学廊 水環境保全論分野 教授 藤原 拓 氏	未定
		国土技術政策総合研究所 上下水道研究部 水道研究室長 田鴻 淳 氏	未定
	1月29日(木) 大津市	京都大学 大学院地球環境学堂 環境調和型産業論分野 教授 越後 信哉 氏	未定
		徳島市上下水道局 理事 辻 裕之 氏	未定
中国 四国	11月21日(金) 広島市	中央大学 理工学部 人間総合理工学科 教授 山村 寛 氏	PFAS 規制の展望と除去・分解技術の現在
		横浜市水道局 施設部長 小西 孝之 氏	水道料金改定と管路更新
九州	10月9日(木) 福岡市 終了しました	中央大学 理工学部 人間総合理工学科 教授 山村 寛 氏	GXとDXで創る健全な水循環による 水道の基盤強化
		日本水道協会 総務部総務課 担当課長 二宗 史憲 氏	水道における災害対応 ～『地震等緊急時対応の手引き』 R7.3 改訂を踏まえて～
	11月17日(月) 鹿児島市	千葉大学大学院 工学研究院 融合理工学部 都市環境システムコース 教授 丸山 喜久 氏	近年の自然災害時における ライフライン施設の機能支障
		横浜市水道局 施設部長 小西 孝之 氏	水道料金改定と管路更新

協会ニュース

新潟会場（8月26日開催）会場67名が参加



横浜市水道局
担当理事
江夏 輝行 氏



筑波大学
情報システム系 教授
庄司 学 氏



会場風景

徳島会場（8月28日開催）会場64名が参加



京都大学大学院 工学研究科
都市環境工学専攻 教授
伊藤 賢彦 氏



明石市上下水道局
水道室長
辻 和也 氏



会場風景

茨城会場（9月4日開催）会場36名、オンライン配信で36団体が参加



香川県広域水道企業団
計画課 課長補佐
遠藤 智義 氏



金沢大学
名誉教授
宮島 昌克 氏

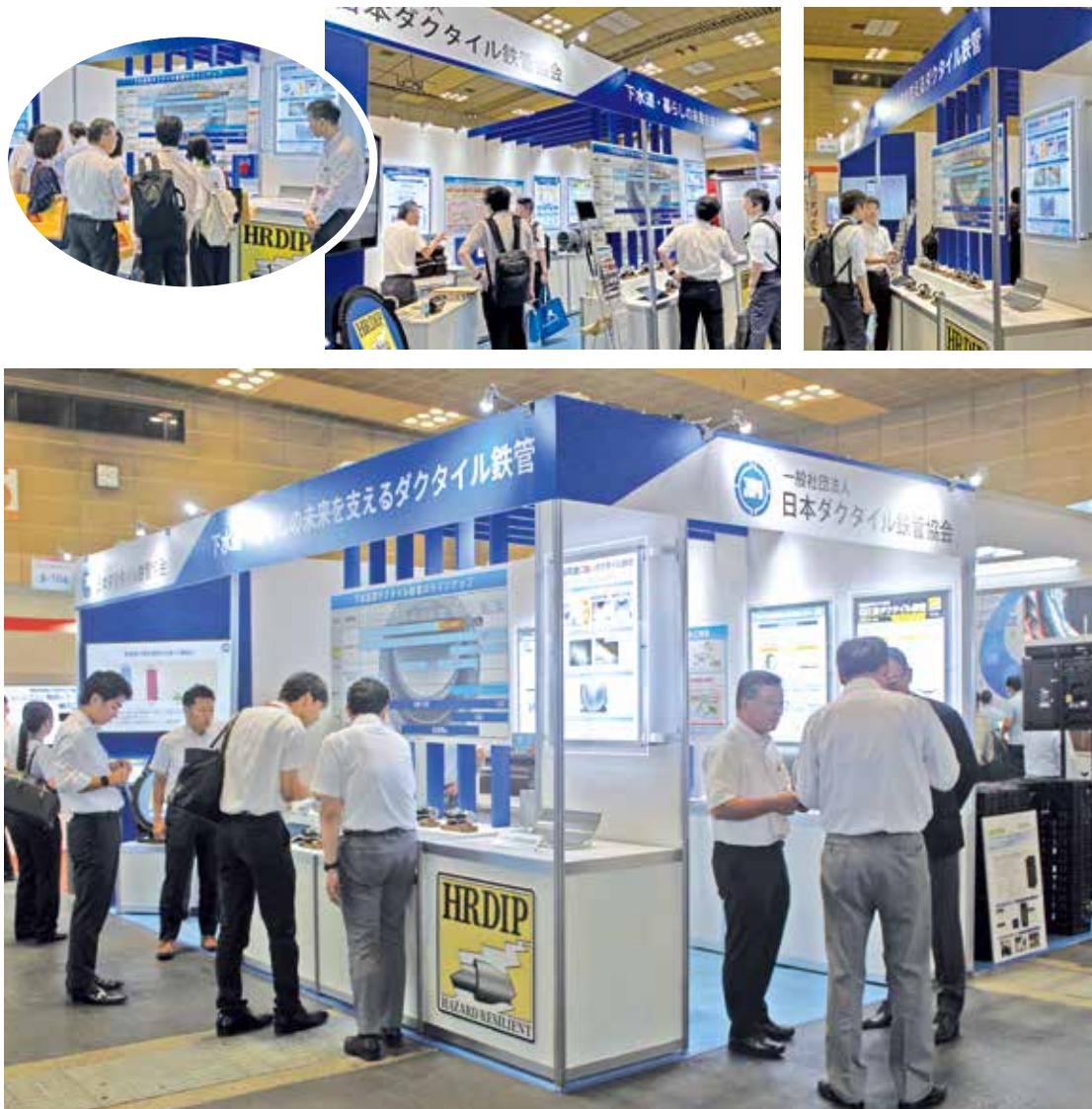


会場風景

「下水道展'25大阪」に出展しました。

7月29日～8月1日までの4日間、インテックス大阪で「下水道展'25大阪」が開催され、当協会も「下水道・暮らしの未来を支えるダクタイル鉄管」をテーマとして出展しました。

昨今の大規模道路陥没事故の発生などで、より強固な下水管路の安全性確保が求められるなか、下水管路におけるリダンダンシー・メンテナビリティの確保を可能にする資器材や技術について、カットサンプルやパネルなどとともに紹介しました。また、下水道施設の強靭化や、下水道におけるダクタイル鉄管の特長についてなどの映像を大型モニターで再生し、当協会ならではの提案や取組みをベース全体でPRしました。来場者からは、ダクタイル鉄管に関する質問なども多数寄せられ、4日間の来場者は約393名となりました。



「管路の強靭・持続に関する研究会」の活動

日本ダクタイル鉄管協会では、水道事業体の技術職員不足が顕在化する中、管路の更新・耐震化を少しでも促進する目的で「管路更新を促進する工事イノベーション研究会」を設置して、小規模管路工事向け簡易型設計施工一括発注方式(以下、小規模簡易DBという)を提案し、様々な事業環境で実施された「モデル事業」を通じて、導入及び工事の事例を蓄積して検証・評価を行い、導入マニュアルや各種手引き等を作成して情報発信する等の活動に取組んできました。



これまでの活動を通じて、管路の更新・耐震化は工事の実施だけでなく、計画策定においては日々の維持管理による管路状況等の把握が重要であり、工事の実施ではバルブ等付属設備の機能確認や操作が必須であるなど、維持管理から、計画策定、設計積算、工事に至る、管路に関する一連の業務が円滑に循環することが不可欠であることを再認識しました。そこで、研究会を「管路の強靭・持続に関する研究会」へと発展的に改組して、小規模簡易DBに関する研究を継続するとともに、維持管理を含めた管路に関する業務の課題への対応について、幅広い視点で研究を進めています。

年 度	活動概要
2018 (平成 30)	<p>「管路更新を促進する工事イノベーション研究会」発足(2018.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 小規模簡易 DB の提案 ◆ モデル事業体の募集、モデル事業の選定、導入のための関係者調整、工事起案 ◆ 研究会の開催(5回)
2019 (令和元)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ モデル事業の実施、モニタリング(十和田市、十日町市、小松島市) ◆ 研究会の開催 ◆ 中間報告書の発行(2019.11) ◆ 報告書の発行(2020.2)
2020 (令和2)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ワーキンググループ(6回)：導入課題と対応策等の討議 ◆ 研究会の開催(3回)：導入課題と対応事例の整理 ◆ 令和2年度研究経過報告書の発行
2021 (令和3)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ モデル事業ヒアリング：事業体・工事業者へのヒアリング(11事業体・7社) ◆ ワーキンググループ(1回)：小規模簡易 DB 導入効果の検証方法の討議 ◆ 研究会の開催(3回)：小規模簡易 DB 導入効果の中間検証 ◆ 令和3年度研究経過報告書の発行
2022 (令和4)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ モデル事業ヒアリング：事業体・工事業者へのヒアリング(7事業体・7社) ◆ ワーキンググループ(4回)：マニュアル・手引きの検討 ◆ 研究会の開催(3回)：マニュアル・手引きの検討、小規模簡易 DB 導入効果に関する検証 ◆ 導入マニュアル・各種手引き等の整備： 「導入マニュアル」「発注者向け 設計の手引き」「工事業者向け 詳細設計図作成の手引き」「詳細設計の照査マニュアル」 ◆ 研究会(第2期)報告書の発行(2023.5)
2023 (令和5)	<p>次期研究会のためのワーキング開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報交換ワーキング(2回)：管路の維持管理(漏水防止、管路修繕、残留塩素管理) ◆ 研究会の開催(2回)
2024 (令和6)	<p>「管路の強靭・持続に関する研究会」に改組(2024.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ プレワーキング(2回)：テーマに関する意見交換 ◆ 情報交換ワーキング(2回)：有収率の維持向上、緊急修繕体制、国交省「上下水道耐震化計画」 ◆ 研究会の開催(2回)

●研究会の活動内容

研究会では、管路の維持管理から更新計画の策定、更新工事に至る一連の業務の課題について、研究会参加の委員事業体等からの情報や、先進事業体での成功事例や最新技術の取組み事例などを調査発掘し、より効率的な管路の維持・更新について研究します。また、継続研究となる小規模簡易DBについては、今後継続するモデル事業の実績結果についてヒアリングを行うとともに、新たな課題の検証、概算数量等の資料のブラッシュアップ等を行います。

効率的な管路の維持・更新に関する研究	小規模簡易 DB の効果検証に関する継続研究	事業体間の交流促進
<p>【管路更新に関する事】</p> <ul style="list-style-type: none">・効率的な更新計画策定支援・工事の効率化 <p>【管路の維持管理に関する事】</p> <ul style="list-style-type: none">・有収率の維持向上・維持管理業務の効率化	<ul style="list-style-type: none">・モデル事業の効果検証の継続調査事例追加・標準数量等の研究会提供情報のメンテナンス	<p>事業体間の交流の機会作りをサポート</p> <p>テーマ選定や運営を支援</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none">・共通の課題を持つ事業体同士・近隣、同地域内の事業体同士・先進的な取り組みを学びたい事業体同士

組 織	
座 長	東京都立大学 滝沢教授
委 員 (17事業体)	函館市企業局、十和田市上下水道部、八戸圏域水道企業団、盛岡市上下水道局、会津若松市上下水道局、嵐山町上下水道課、十日町市上下水道局、四日市市上下水道局、氷見市建設部上下水道課、豊中市上下水道局、大阪広域水道企業団富田林水道センター、堺市上下水道局、東大阪市上下水道局、明石市上下水道局、広島県水道広域連合企業団、広島市水道局、鹿児島市水道局
オブザーバー	国土交通省 日本水道協会

研究会の具体的な研究テーマは、委員事業体との意見交換を通じて「有収率の維持向上」「緊急修繕」「管路更新」「人口減少・過疎化」の4テーマを主要テーマとしました。また、国の新しい施策や日本水道協会の指針の改訂など、隨時必要に応じてテーマの設定を行います。各テーマごとにグループ分けを行って情報交換ワーキングを実施し、その後、全メンバーが参加する研究会を開催して情報交換や意見交換を行う、という流れで進めています。

効率的な管路の維持・更新に関する研究 研究テーマ(案) R6~R8

- 1.有収率の維持向上(効果の高い漏水調査方法、新たな方法の実績、更新計画への展開方法 等)
 - 2.緊急修繕(体制整備-受付連絡・夜間休日待機・修繕業者確保・契約・工事精算、大規模災害 等)
 - 3.管路更新(更新計画の策定、担い手の確保、不調対策、更新促進の取り組み 等)
 - 4.人口減少・過疎化(管路更新や今後の給水区域についての考え方、残塩確保のための捨水削減 等)
- その他:国の新しい施策や日水協指針等の改定など、必要に応じて隨時テーマ選定

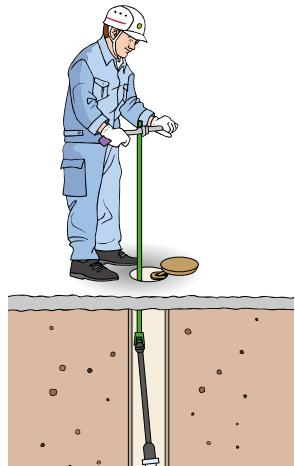
※ あくまでも原案であり、隨時修正を前提に作成。研究会参加の委員事業体の意見により隨時変更できる。

さらに、事業環境に応じた管路の維持管理及び管路更新に向けて、研究会活動の情報発信を行うとともに、研究会を通じた「事業体間の交流促進」として、実務担当レベルでの連携や取り組み事例の情報交換の機会作りのサポートにも取り組んでまいります。



HINODE

バルブ操作をより確実にする 傾斜対応継ぎ足し棒 BPR

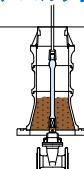


BPR（ポールポイントロッド）は先端にポールポイント構造を採用。バルブが埋没している場合や傾いている場合でも、緊急時や維持管理の場面において、バルブ操作を確実に且つ容易に行うことができます。

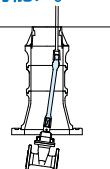


ボールポイント構造

バルブが埋まっていても斜めでも、バルブ操作が可能に。



バルブが埋没



バルブが傾斜

日之出水道機器株式会社

本社 福岡市博多区堅粕5丁目8番18号(ヒノデビルディング)

BPRの詳しい
情報はこちら



繋ぐダクトイル。

社会を繋ぐ。河川を繋ぐ。未来へ繋ぐ。

遠山鐵工所
オリジナル

TOHYAMA TIFアダプター

水圧による離脱なし！曲げも伸縮も自在！

高水圧に耐える止水性能 土20~40mmの伸縮性能 容易な施工時の取り付け

ダクトイル鋳鉄製高性能フランジアダプター 口径75~2600mm WEBカタログ



株式会社 遠山鐵工所

〒346-0101埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼18番地(久喜菖蒲工業団地内)
TEL 0480-85-2111 <https://www.kk-tohyama.co.jp>

浄水場・配水池・水処理センターの建設、更新に 九マークの法兰ジ形異形管



豊富な管種、安定した品質、確実な納期で九州鋳鉄管の製品は日本全国で活躍しています。

九 九州鋳鉄管株式会社

<http://www.kyuchu.co.jp>

本 社：福岡県直方市大字上新入1660-9

TEL 0949-24-1313

東京支店：東京都千代田区内神田2-7-12 第一電建ビル401号

TEL 03-3525-4551

ホームページで便覧がダウンロード
できるようになりました。



そのほか、各種技術資料もダウンロードできます。

(一社) 日本ダクトタイル鉄管協会

編集後記

- 卷頭言は、一般社団法人日本水道工業団体連合会の森岡専務理事に「水辺の思い出」と題してご執筆いただきました。ご自身のこれまでの仕事を振り返り、思いを込めて綴っていただいております。
- 対談では「軍都・広島市の水道の歴史とこれからの人材育成について」というテーマで、安田女子大学の竹本教授と広島市水道局技術部の松岡維持担当部長に語っていただきました。また、聴講者として竹本教授の現役ゼミ生（5名）にもお越しいただき、適宜ご発言をいただきました。原爆投下という未曾有の事態の中でも断水を避けた、広島市水道の「不断水の歴史」は、命を守るために水を絶やさぬという職員の強い使命感や、苦境の中でも工夫を重ねた先人たちの姿勢が垣間見られました。一方で、明治期の軍都広島の形成や衛生・防災の観点からの水道創設、火災や伝染病を契機とした整備の歩みなど、広島市水道の歴史を原爆以降だけで語るのではなく、被爆以前の創設期に込められた努力や背景にも、もっと光を当てる必要があることを改めて感じました。学生
- の皆さんの率直な感想からは、歴史を受け止めながら現在の水道の価値を新たに実感している様子が伝わってきました。
- 「この人に聞く」では、尾道市の横山上下水道事業管理者にインタビューしました。管理者は、「市民のために」を常に心に置き、若い頃から現場の苦労を重ね、西日本豪雨においての迅速な対応は、まさに管理者の仕事に対する誠実さと献身的な姿勢の結晶であると感じました。厳しさの中にも思いやりがあり、次代を担う職員の育成も熱心に行われているのが印象的でした。
- 技術レポートは、水道工事情報システムを活用した施工の効率化、橋梁添架管の移設に伴う呼び径 500GX 形の施工事例、広域化による持続可能な水道サービスの取組についての 3 本です。ぜひご一読ください。
- 事業体だよりでは、11 の事業体から、さまざまな取り組みについてご寄稿いただきました。工夫を凝らした内容には、参考となる広報や PR の事例も多く含まれておりますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

ダクタイル鉄管第117号〈非売品〉

2025年10月24日発行

編集兼発行人 田 村 聰 志

発 行 所 一般社団法人
日本ダクタイル鉄管協会
(<https://www.jdpa.gr.jp>)

本部・関東支部	〒102-0074	東京都千代田区九段南4丁目8番9号(日本水道会館) 電話03(3264)6655(代) FAX03(3264)5075
関 西 支 部	〒542-0081	大阪市中央区南船場4丁目12番12号(ニッセイ心斎橋ウェスト) 電話06(6245)0401 FAX06(6245)0300
北 海 道 支 部	〒060-0002	札幌市中央区北2条西2丁目41番地(札幌2・2ビル) 電話011(251)8710 FAX011(522)5310
東 北 支 部	〒980-0014	仙台市青葉区本町2丁目5番1号(NL仙台広瀬通ビル) 電話022(261)0462 FAX022(399)6590
中 部 支 部	〒450-0002	名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル) 電話052(561)3075 FAX052(433)8338
中 国 四 国 支 部	〒730-0032	広島市中区立町2番23号(野村不動産広島ビル8階) 電話082(545)3596 FAX082(545)3586
九 州 支 部	〒810-0001	福岡市中央区天神2丁目14番2号(福岡証券ビル) 電話092(771)8928 FAX092(406)2256

水をつなぐ、 しあわせをつむぐ

安心できる水と暮らしている人のために、
その水をつなぐために努力する全ての人と共に、
日本鋳鉄管は、技術と知識で
安心できる暮らしと構造を実装します。



日本鋳鉄管株式会社

本社 | 〒104-0045 東京都中央区築地1-12-22コンワビル ☎ 03-3546-7675
久喜工場 | 〒346-0193 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼一番地 ☎ 0480-85-1101
支社 | 北海道支社、東北支社、中部支社、九州支社



www.nichu.co.jp

For Earth, For Life
Kubota

ON YOUR SIDE

1890年の創業から「食料・水・環境」の課題解決に向けて歩んできたクボタ。

これからも一歩一歩、すべての人と心をひとつに、明日へと進み続けます。

株式会社クボタ